

にじーず活動報告書 2020年度

LGBTユースの居場所ににじーず



(1) 運営体制

- にじーずは10代から23歳までのLGBT（かもしれない人を含む）が毎月集まれる居場所として2016年8月に池袋で発足しました。
- その後、若年層のLGBTが安心して集まれる場が全国的に乏しいことから、19年度より札幌・埼玉での拠点が開始し、2020年度には京都にも新たな拠点ができました。2020年度末時点では全国4拠点で居場所事業を行っています。
- 参加者は自分のジェンダーやセクシュアリティについて日頃話せないこと、学校や家庭などで困っていることを共有できます。

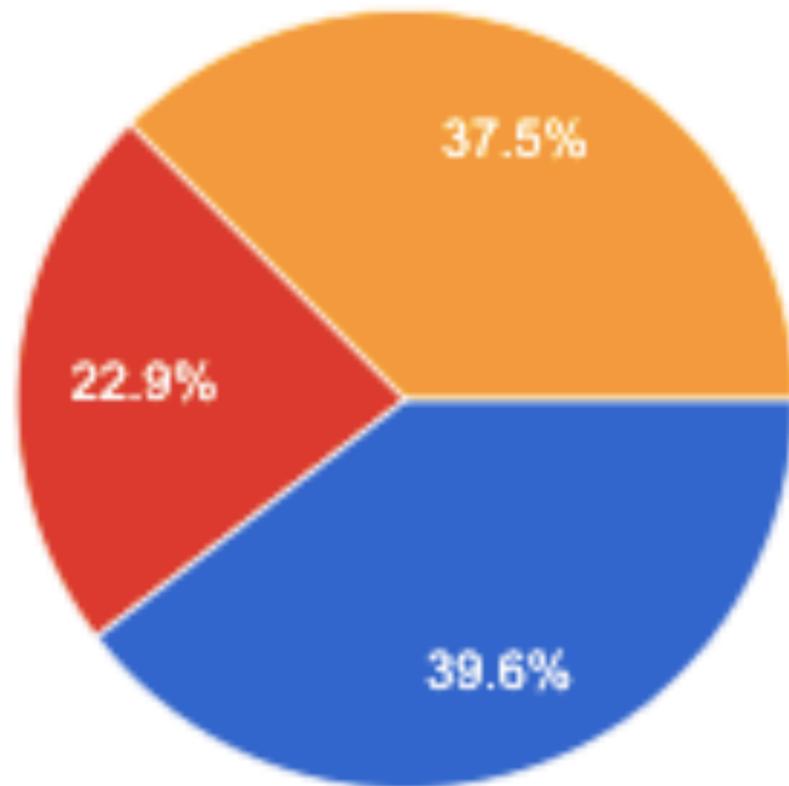
(2) コロナ禍での活動

- 2020年度はコロナ禍により居場所事業の一時中断がありました。居場所事業を開催している公共施設が閉まったり、外出自粛が呼びかけられたりする中で、ユースとどのように関わり続けるか試行錯誤が続きました。
- 居場所事業については、これまで「いつ来てもいつ帰ってもよい」ルールを事前予約制にし人数制限や連絡先の把握を行いました。感染予防や、万が一感染が起きてしまった際に備えられた反面、ユースにとっての参加ハードルがあがる面もありました。

コロナにまつわるユースの声

Q. 新型コロナウイルスの影響で、LGBTコミュニティに出かける機会や、家族関係、メンタルヘルスに影響はありましたか？

あった：39.6% どちらともいえない37.5% なかった：22.9%（回答48件）



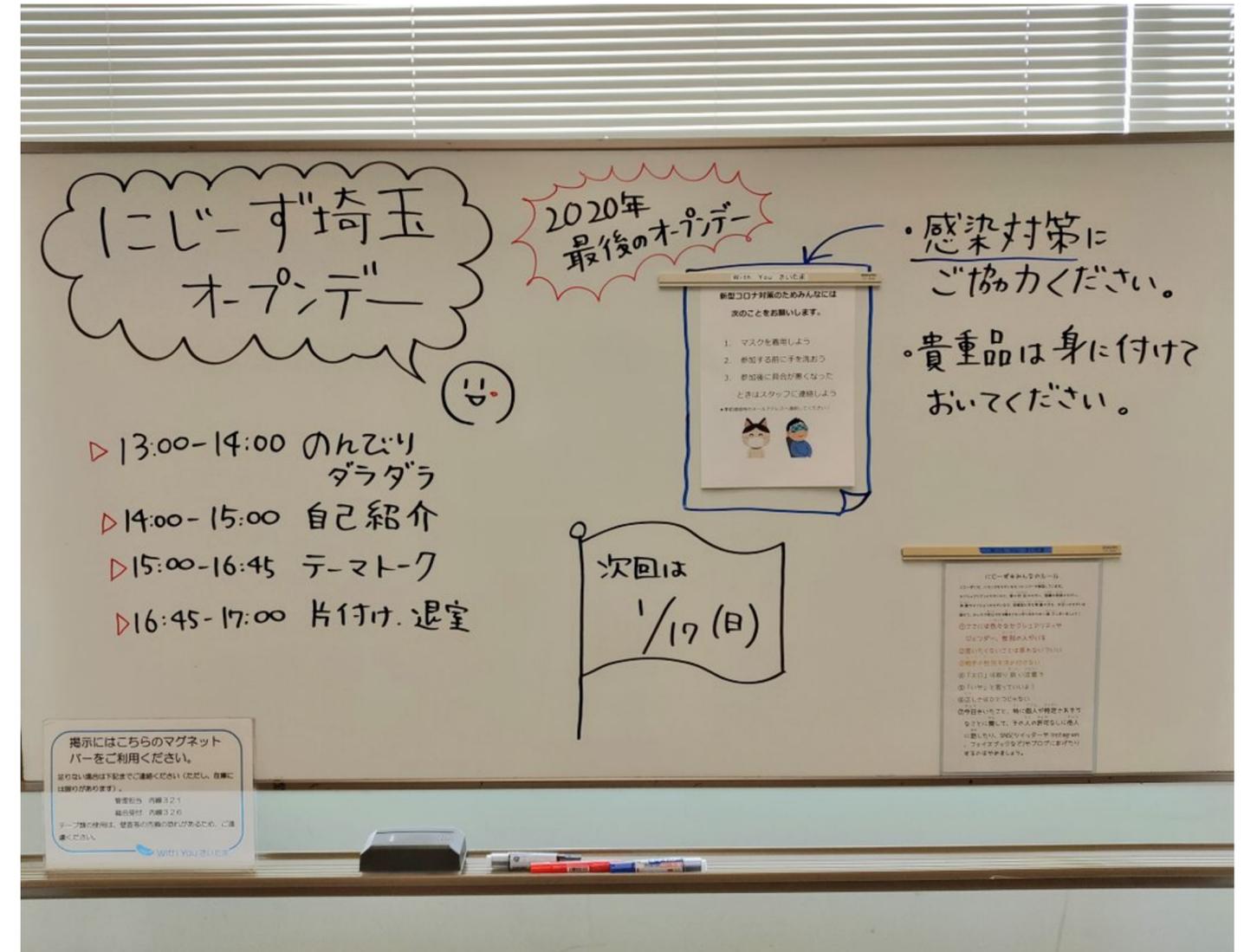
- ・学校や家であった困ったこととかを話す場所が無くなって、モヤモヤした気持ちが溜まってしまった。
- ・外出が禁じられたため、都心部へ行けなくなり、そのためにじーずへ行く事が困難になってしまいました。
- ・孤立し、自分は生きていていいのだろうかと何度も思うことがあった。
- ・家族とはとても仲が悪くなったので家出した。

オンライン事業の実施

- 居場所事業の一時休止やコロナ禍により外出困難なユースが増えたことを踏まえ、ツイキャスを利用した交流企画「にじーずオンライン」およびSNSを利用したオンライン相談を開始することで、ユースとの接点を作りました。
- オンライン相談は毎週水・土にスタッフがTwitterおよびコミュニティアプリ「Yay!」で寄せられた質問や相談に回答する形式で実施しました。
- 日頃になじーずに参加したくても遠方に住んでいるなど、これまでアクセスできなかったユースとつながることが可能となりました。

利用者数の推移

- 居場所事業は全国の拠点で合計26回開催し、**のべ200名**が参加しました。
- 事前予約による人数制限を行なったこと、開催できない月があったことなどから、2019年度に比べると参加者数は**3割**に止まりました。
- 200年6月から開始したオンライン相談には年度末までに**239件**の相談がありました。



(3) 公開イベント

- 活動報告会をオンラインで開催した他、埼玉では11月に公開シンポジウムを開催し、130名を超える学校関係者などの参加を得ました。
- 埼玉ではシンポジウムの開催にあわせて県内の中学・高等学校638校にイベントのチラシを郵送しました。

(4) 新規拠点

- 10月より、京都市南青少年センターの協力を得ながら、京都にて居場所事業の拠点をつくることができました。偶数月にオープンデーを開催している他、センター主催のイベントににじーずが協力するなどの関係を築いています。

(5) 参加者の声

- 楽しい、困ったことがあっても次のに
じーずで聞けばいいとか話せばいいと
思うと必要以上に悩まない
- いろんな人の様々な意見とか体験談と
かを聴けて自分がもし困った時の対処
法とかを知れた。あとシンプルに友達
が増えた。
- 今までしてきたいろいろな苦勞を話せ
る場があるのが嬉しかった
- 見た目や名前で性別を判断されないのが
本当に嬉しかったです。普段は女性とし
て生活しているので、ここでだけはあり
のままの自分でいれるなと思いました。
- LGBTや差別に対しての意識が変わっ
た。今まで仕方ない、当たり前だと思っ
ていたことが実は差別なのではないかと
思うようになった。
- 自分はこのままでいいんだって思えたし
自分が中性でいることは変じゃないって
思えました

(6) 全体のふりかえり

- ・ コロナ禍において居場所事業をどう継続させるか、ユースとの接点をどう維持するか難しい判断を迫られた年でした
- ・ 一方で埼玉では学校への広報が機能し参加者数が安定し、京都でも新拠点ができるなどの前向きな変化もありました。拠点を増やし、より多くのユースに繋がりを提供できるよう引き続きがんばります。

<収入の部>

助成金	¥682,352	寄付金	¥2,084,512
合計	¥2,766,864		

<支出の部>

謝金	¥573,920	会場費	¥63,050
支払手数料	¥33,660	広告宣伝費	¥12,145
消耗品費	¥18,743	通信費	¥72,342
会議費	¥11,793	交通費	¥70,390
備品	¥17,616	地代家賃	¥70,004
雑費	¥3,200		
合計	¥946,863		

当期収支差額	¥1,820,001
前年度繰越金	¥ 332,527
次年度繰越金	¥2,152,528